熊本･大分地震
南阿蘇村　口腔機能支援

福岡歯科大学総合歯科学講座
高齢者歯科学分野
山口真広

本日の内容

- 今回の経緯
- 南阿蘇村の概要
- 口腔機能支援の起承転結
- 口腔機能支援の経日的変化
- まとめ・考察

Seiai Rehabilitation Hospital

今回の経緯

2016.04.16　1時25分

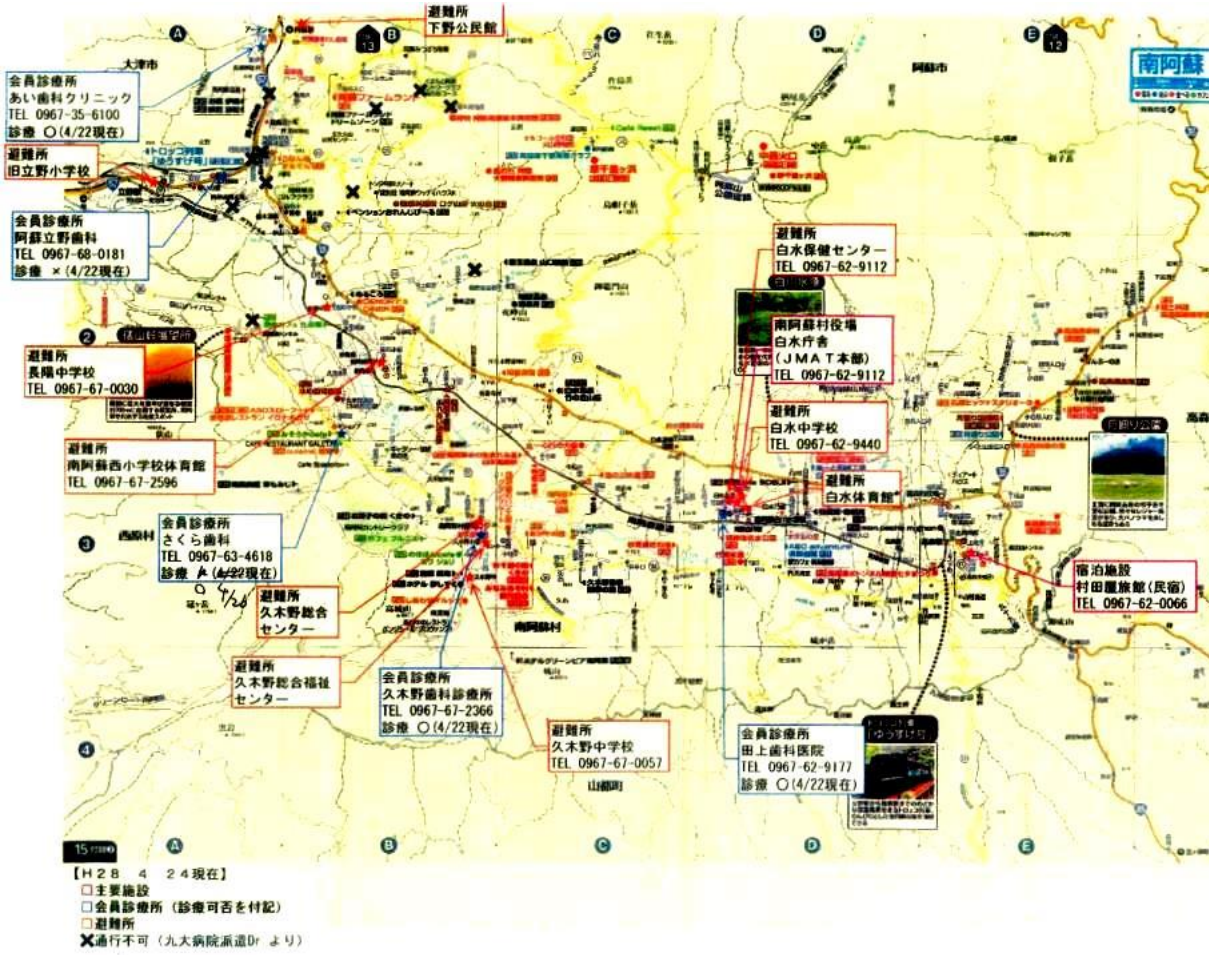
益城町、西原村を震源に震度7の地震が発生

- 死者：49名
- 避難者：183,882人(最大時、4月17日時点)

2016.04.23～05.22　@南阿蘇村

- 熊本県歯科医師会・熊本県歯科衛生士会
- （第1・4班） 福岡県歯科医師会・福岡県歯科衛生士会・福岡歯科大学
- （第2班） 大分県歯科医師会・大分県歯科衛生士会・九州歯科大学
- （第3班） 宮崎県歯科医師会・宮崎県歯科衛生士会・宮崎県JRAT・九州大学

南阿蘇村の概要



4月23日現在の情報(田上先生より)

- 避難所数　18(白水5、久木野6、長陽7)
- 避難者数　2300人(白水、久木野500、長陽1300)

＜発災前＞

人口約11600人、4744世帯

高齢化率約35%

主に4つの地区

「白水(はくすい)」

「長陽(ちょうよう)」

「久木野(くぎの)」

「立野(たての)」

＜歯科医療供給体制＞

村内は5件。

- 田上先生(田上歯科医院)
- 新生先生(久木野歯科診療所)
- 隈井先生(あい歯科)
- 田村先生(さくら歯科)
- 丸野先生(阿蘇立野歯科)

高森町に2件。

- 片山先生(片山歯科)
- 三森先生(三森歯科)

阿蘇市から訪問歯科診療

- 我那覇先生(阿蘇きずな歯科医院)

「起」
第一班（2016.04.23～05.01）

＜ミッション＞

「村内住民全員のアセスメント」

「要援護者対策」「感染症対策」

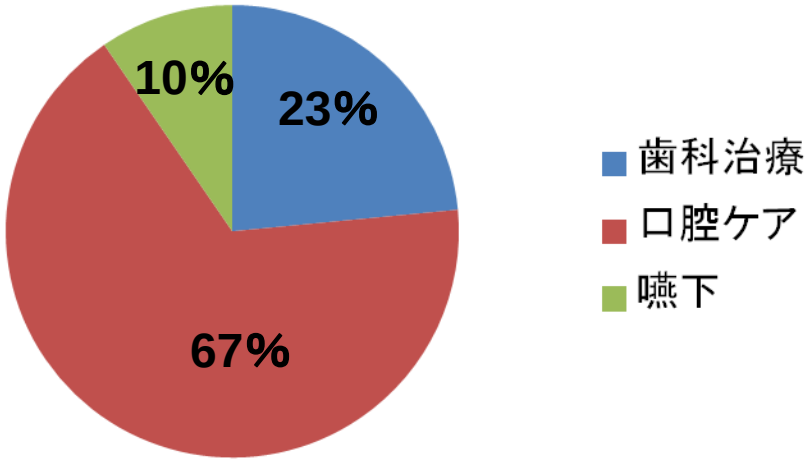
「誰でもできる、仕組み作り」

活動概要

訪問先別アセスメント・処置数

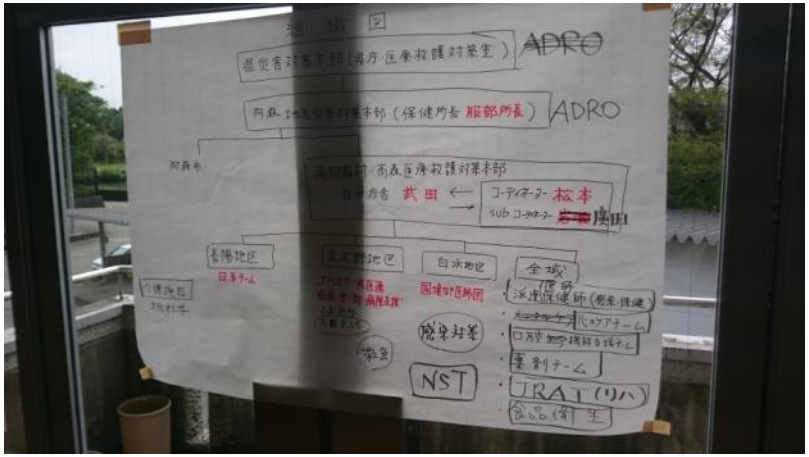
	アセスメント施設数			アセスメント患者数			処置施設数			処置患者数			処置別患者数		
	避難所	施設	在宅	避難所	施設	在宅	避難所	施設	在宅	避難所	施設	在宅	治療	ケア	嚥下
4月24日	7	4		106	117								0	0	0
4月25日	3	2		41	46		1			2			2	0	0
4月26日							7	5		15	28		9	19	5
4月27日		1			4		2	3		3	9		4	9	0
4月28日		1			1		2	2		3	10		2	10	2
4月29日		7			73		4	2		7	12		4	14	1
4月30日	1			3			2	5	1	7	26	1	6	25	3
小計	11	15	0	150	241	0	18	17	1	37	85	1	27	77	11
合計			26			391			36			123			115

陽の丘荘にて（福歯大チーム）



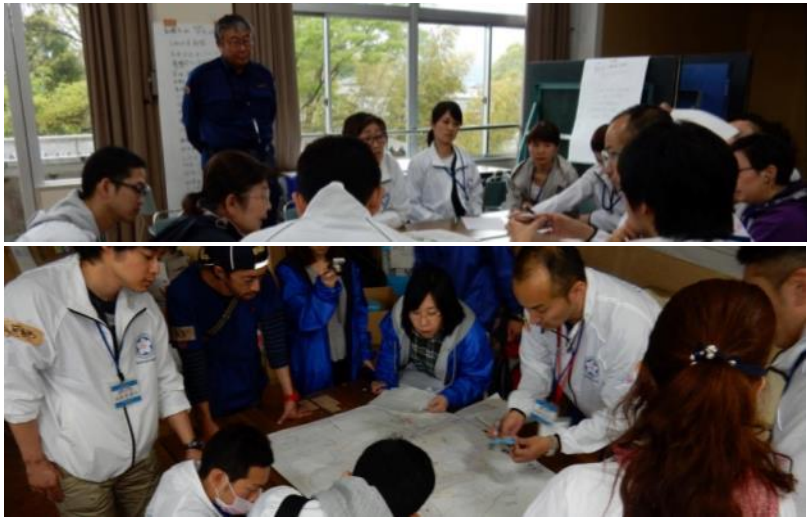
処置別患者数

組織の中の「口腔機能支援チーム」



支援活動の組織図

最大200人、災害対策本部会議



総力を挙げて、避難所トリアージ

塩崎厚労大臣が訪問

チーム医療　～多職種連携～

JRATと福岡歯科大チーム

JMATと福岡歯科大チーム

JMATと熊本県歯科医師会

日赤と熊本県歯科衛生士会

「承」
第二班（2016.05.02～05.08）

＜ミッション＞

「急性期から慢性期への活動」

「多職種、地元との連携強化」

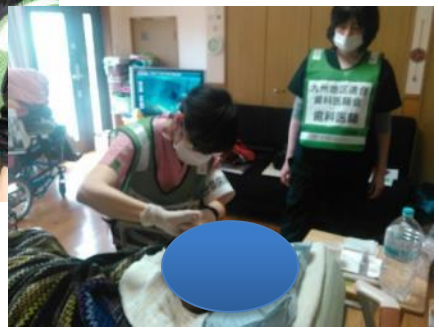
活動概要

急性期から慢性期への移行の時期。

被災者の方々にできるだけストレスを与えない、

且つ誤嚥性肺炎のリスクが高まらないようにすることを念頭に活動を行った。

慢性期での活動



口腔ケア

地元歯科医師・衛生士との連携

物品チェック・補充

嚥下機能の評価

施設廻り、リスクチェック

多職種連携強化

感染対策医師との意見交換

JRAT、DPAT、保健師、栄養士等との
避難所集団指導にむけて

日赤チームとの連携

地元・保健師との情報共有

「転」
第三班（2016.05.08～05.15）

＜ミッション＞

「災害慢性期のリハビリテーション」

「地域医療へバトンをつなぐ」

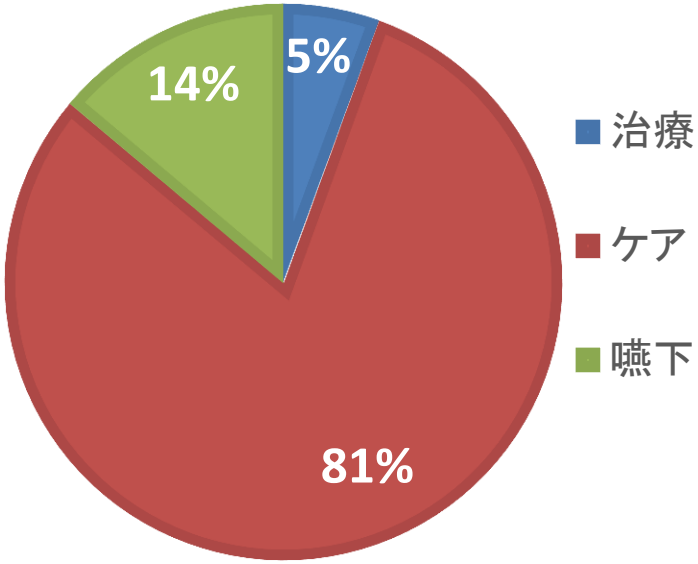
活動概要

訪問先別アセスメント・処置数

	アセスメント施設数			アセスメント患者数			処置施設数			処置患者数			処置別患者数		
	避難所	施設	在宅	避難所	施設	在宅	避難所	施設	在宅	避難所	施設	在宅	治療	ケア	嚥下
5月9日	1	1		9	17		2	1	1	6	8	1		14	1
5月10日	3	3		12	49		3	2		4	16			14	6
5月11日	2	5		4	22		2	3		5	9		2	11	1
5月12日	2	5		6	15			3			13		2	10	1
5月13日	1	7		2	39			1			1				1
5月14日	4	5		13	10		3	1		7	2			9	
小計	13	26	0	46	152	0	10	11	1	22	49	1	4	58	10
合計			39			198			22			72			72

※5/8, 5/15は引継ぎ作業のため、実働なし

宮崎県歯科医師会＋九州大学チーム



処置別患者数

ST（言語聴覚士）との協働

摂食嚥下の専門家であるST（言語聴覚士）は、生活を診るという歯科医師と違った視点を持ち、集団リハビリテーションの場でも、リスクの高いケースにおいても存在感を発揮した。
災害慢性期の歯科医療、ひいては高齢者歯科医療に必要な人材である。

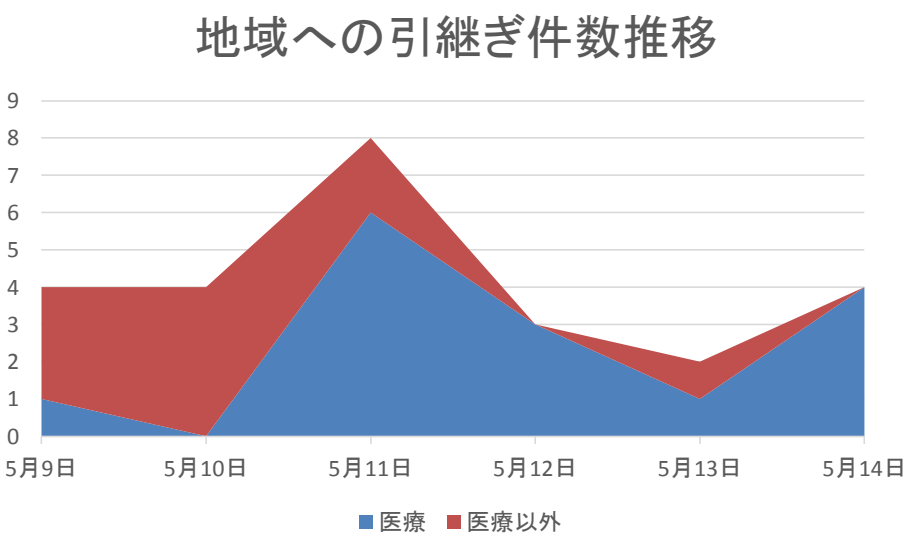
引継ぎの始まり

問題点

施設単位

個人単位

地域へバトンを渡す準備を始めた。



「結」
第四班（2016.05.15～05.22）

＜ミッション＞

「ソフトランディング」

「支援から自立へ」

一日の行動の実際

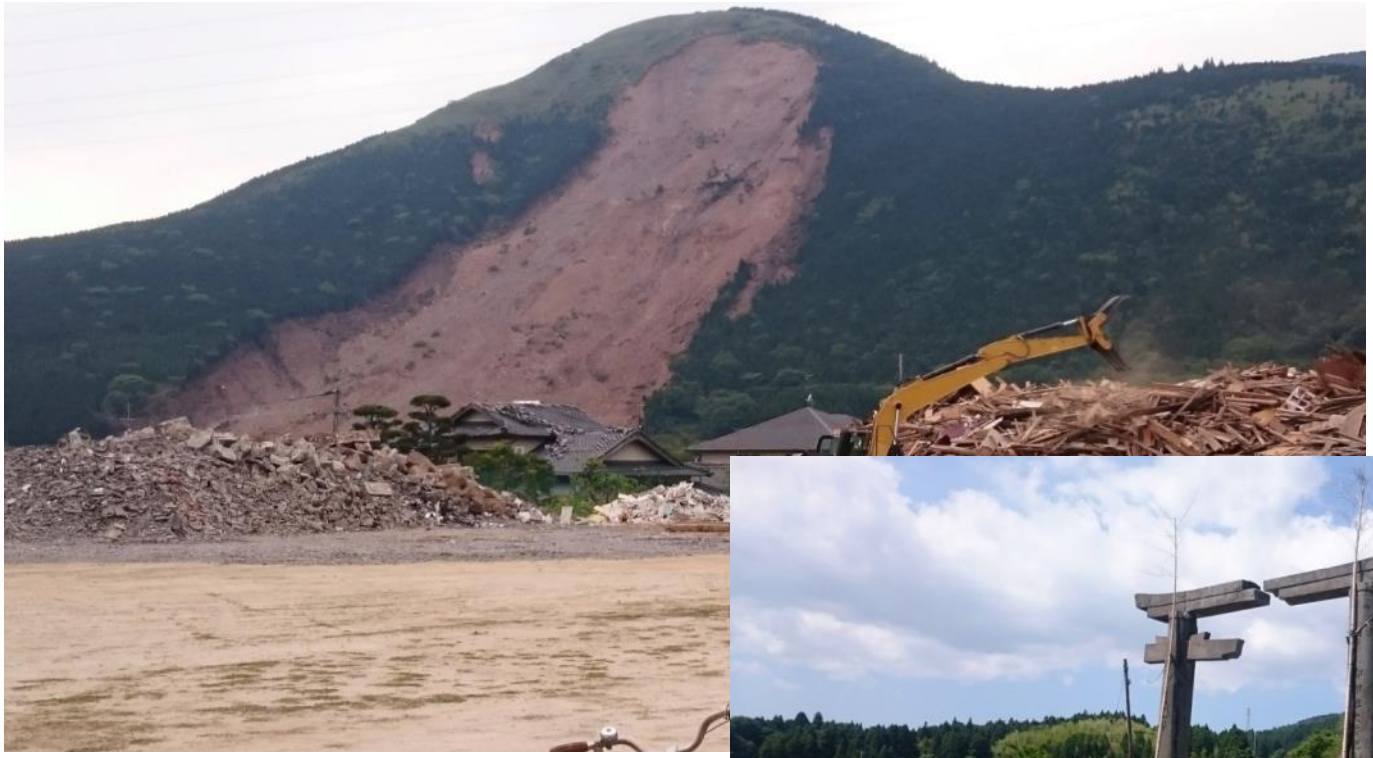
- 活動期間：2016.05.15～05.22
- 8:30　　白水庁舎集合(本部)
- 9:00　　リーダー会議
- 9:30頃～　活動開始
- 15:30　　本部集合
- 15:30～　活動報告のまとめ
- 16:00　　全体ミーティング
- 17:00～　１日の申し送り

拠点:白水庁舎

リーダー会議の様子

夕方の全体ミーティング

南阿蘇村の様子



天皇陛下の訪問

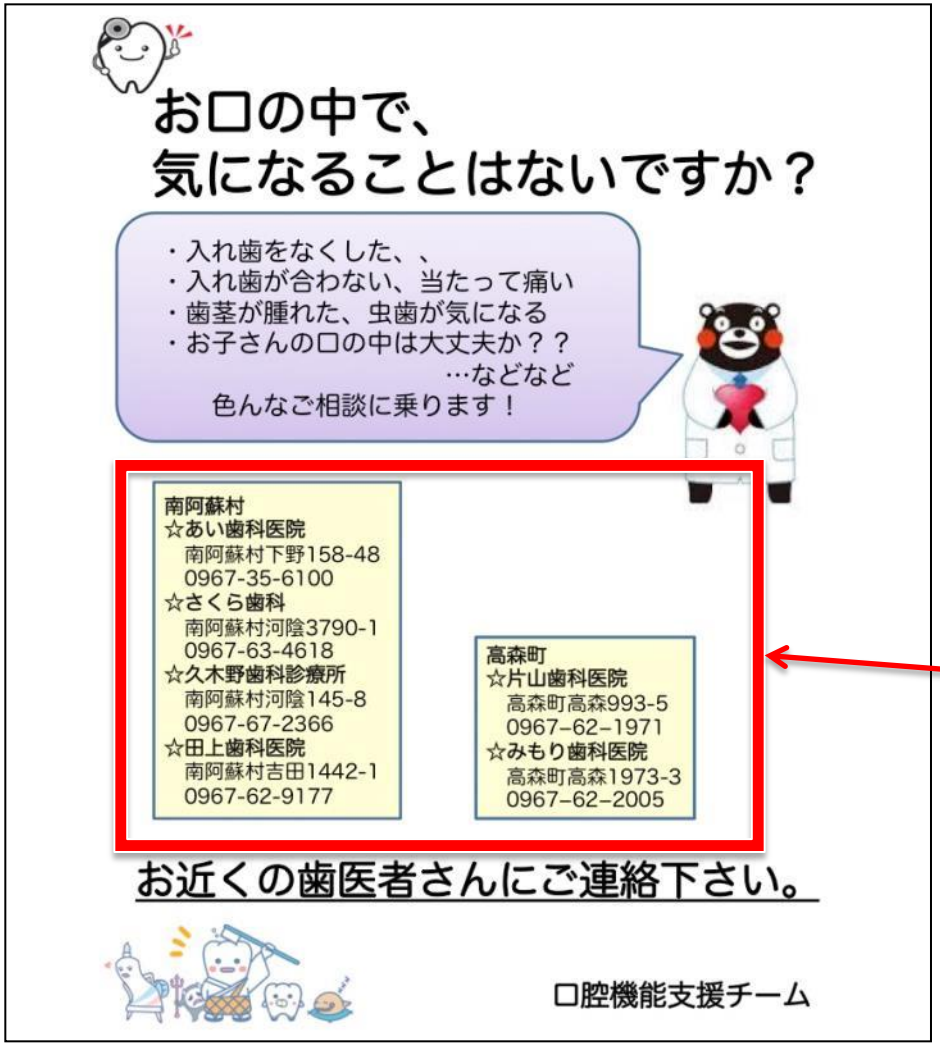
活動風景

活動概要

- ソフトランディング
  地元歯科医院への移行
  各施設の通常運転へ

- 支援から自立へ
  各地元歯科医院へ引継ぎ
  適切な物資支援と指導

地元歯科医院への移行



- 5月22日で口腔機能支援の完全撤退を各施設、避難所等に告知し、現在、相談、治療の受けれる歯科医院を記載したポスターを掲示していただいた。
- 地元歯科医院の住所、電話番号などを記載。

各施設の通常運転へ

- 各施設に対して電話にてインタビューを行い、
①新たな歯科ニーズがないか②物資は足りているか
③かかりつけ医の有無④ポスターの掲示の依頼
以上、4点を伺い必要があれば支援を実施した。

各地元歯科医院へ引継ぎ

- 要フォローの患者さんに対しては地元の歯科医師と連携して一緒に治療計画やリハビリプランを作成した。
- また必要があれば、リハビリテーションの指導も実施した。

適切な指導

- 在宅などで日々のケアが必要な患者さんで、まだ十分な歯科的支援が受けれていない患者さんに対してはご家族にケアやリハビリテーションのやり方を指導した。

引継ぎの終わり

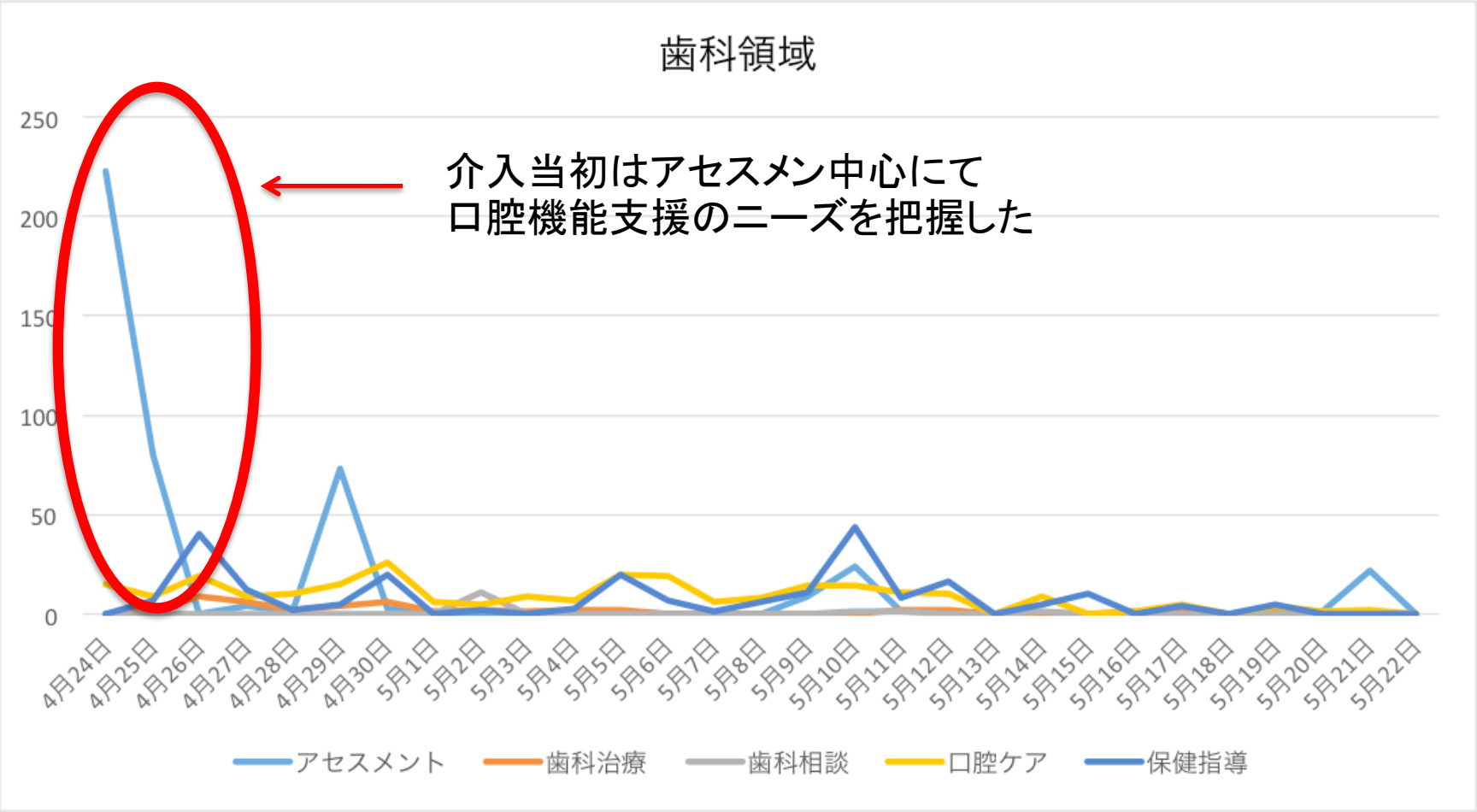
- 口腔機能支援の完全撤退後も南阿蘇にもともとある、医療資源にて医療が受けれるように、コーディネーターへと引き継いだ

口腔機能支援　連絡先

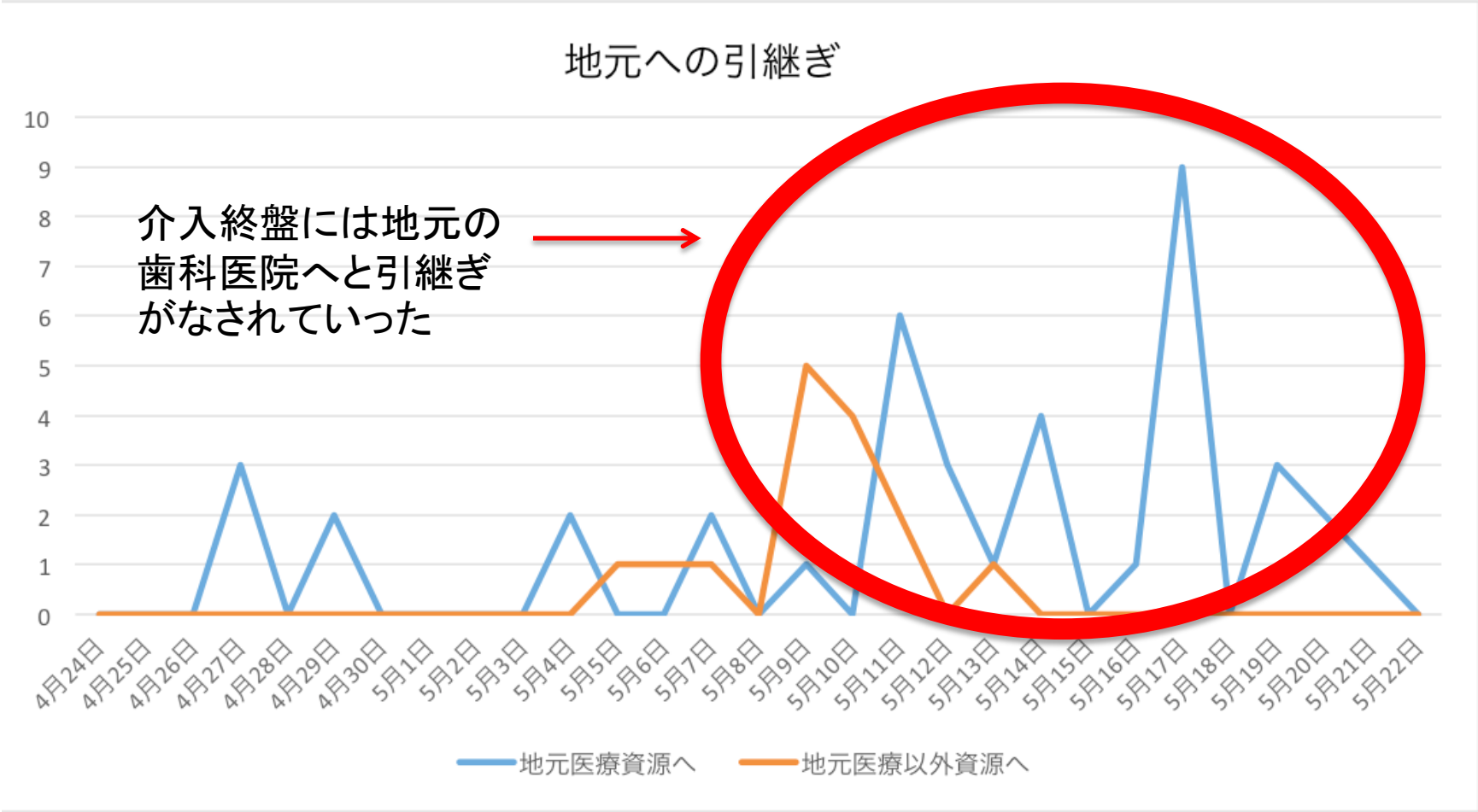
歯科医師　**田上　大輔**

0967-62-9177
090-3075-3780
阿蘇郡南阿蘇村大字吉田1442-1
田上歯科医院

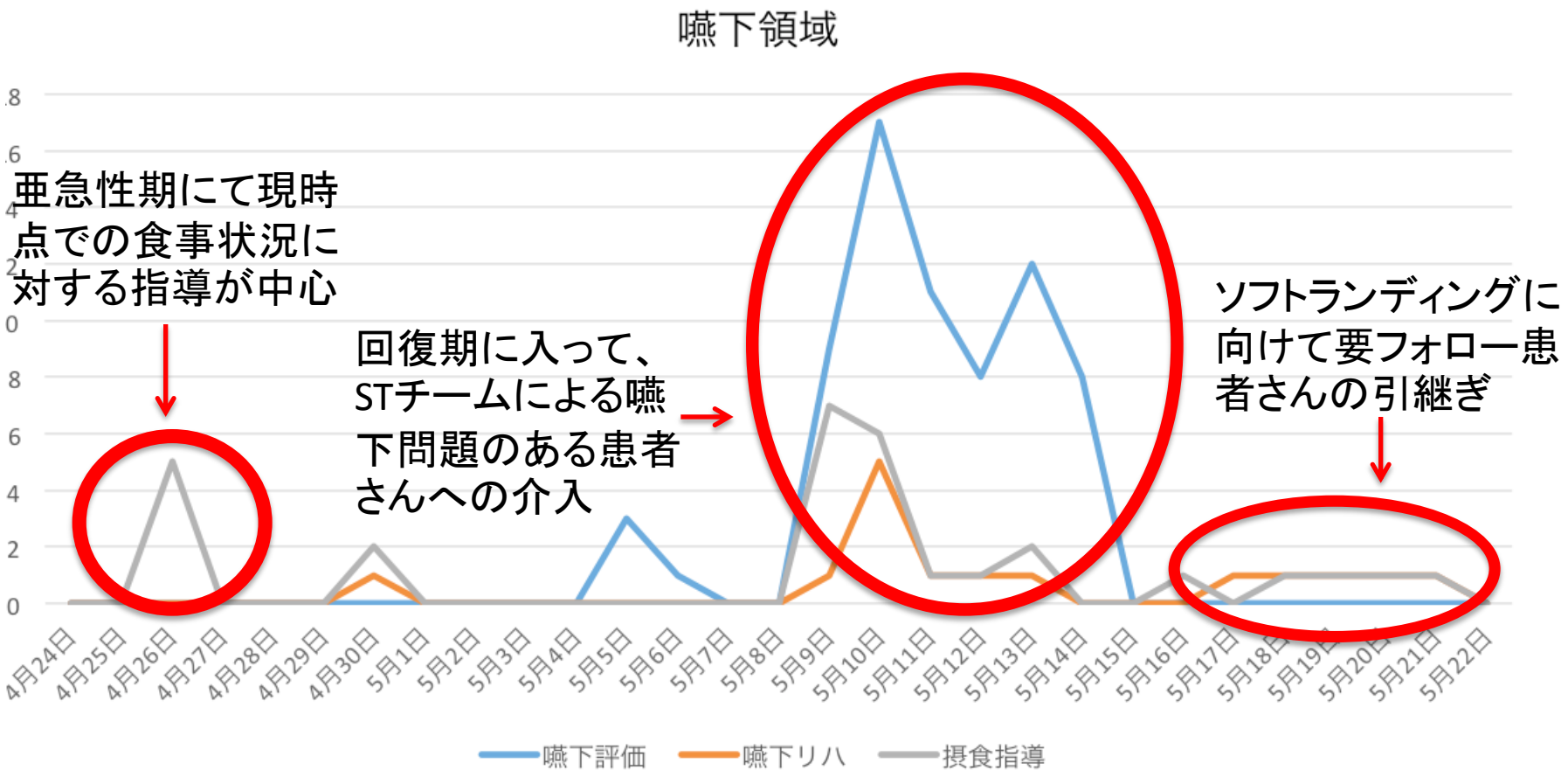
口腔機能支援の経日的変化



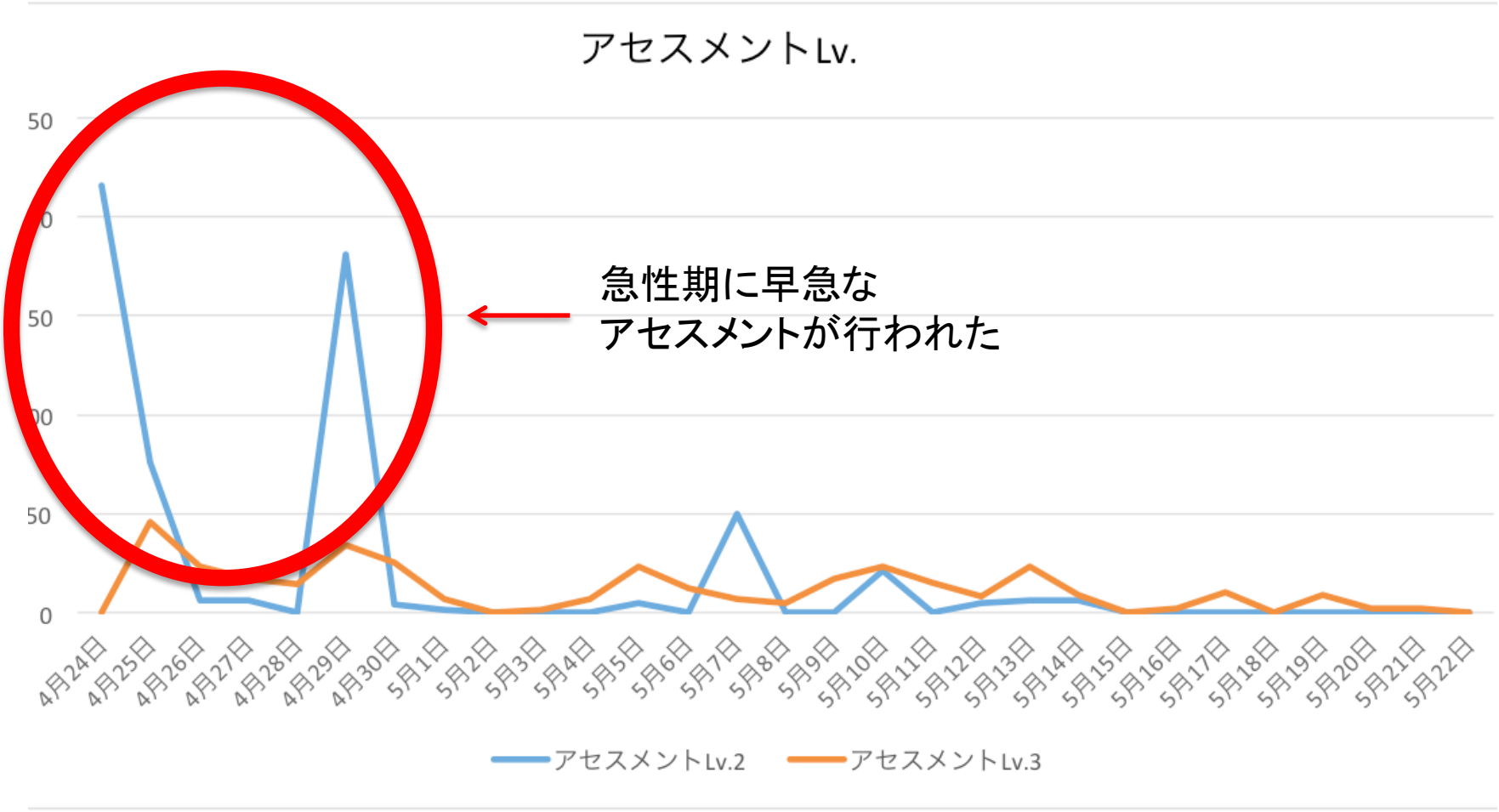
口腔機能支援の経日的変化



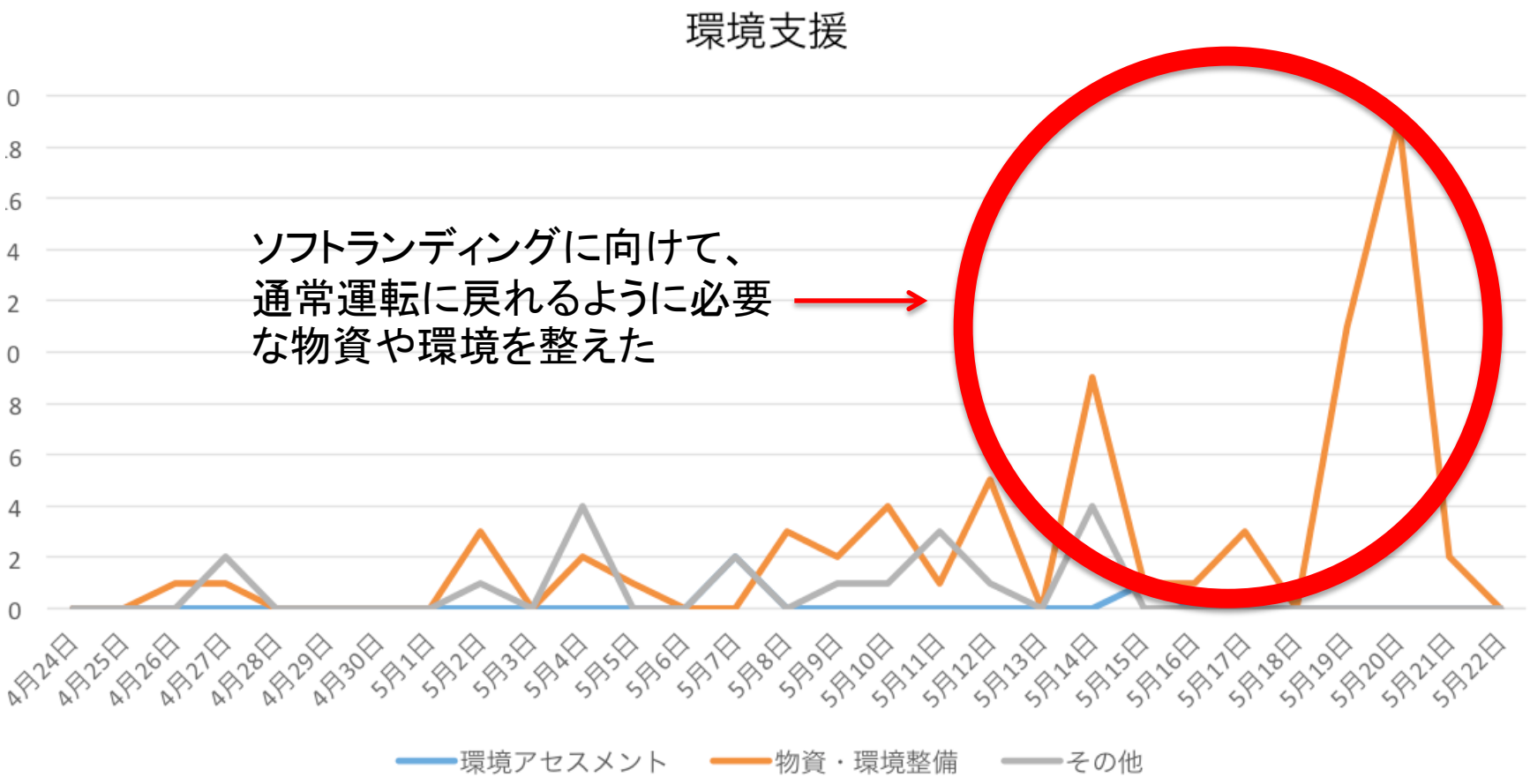
口腔機能支援の経日的変化



口腔機能支援の経日的変化



口腔機能支援の経日的変化



まとめ・考察

「迅速な介入」と「適切な引継ぎ」がなされた理由

１）「地元の医師と歯科医師の連携」

２）「地元歯科コーディネーター」

３）施設等の「かかりつけ医」

４）統一した「標準アセスメント票」

５）コミュニケーションツールとしての「OHAT」 など

～「偶然」や「奇跡」を、「必然」に変える日まで～

最後に

- 今回の震災に被災された方、またはご家族、ご親戚の方々には心からお見舞い申し上げると共に一日も早い復興を願っております。

Seiai Rehabilitation Hospital

ご清聴ありがとうございました

Seiai
Rehabilitation
Hospital